

増悪すると言われており、ダニ対策が重要です。
室内ダニの除去方法として以下があります。(3)

1. 掃除機がけは、吸引部をゆっくりと動かし、1畳当たり30秒以上の時間をかけ、週に2回以上行う。
2. 布張りのソファ、カーペット、畳はできるだけやめる。
3. ベッドのマット、布団、枕にダニを通さないカバーをかける。
4. 布団は週に2回以上干す。困難なときは室内干しや布団乾燥機で、布団の湿気を減らす。週に1回以上、掃除機をかける。
5. 部屋の湿度を50%、室温を20~25℃に保つよう努力する。
6. フローリングなどのホコリの立ちやすい場所は、拭き掃除の後に掃除機をかける。
7. シーツ、布団カバーは週に1回以上洗濯する。

夏に向けてダニ以外にも、春から夏にかけて飛散するイネ科のハルガヤ、カモガヤ、オオアワガエリ花粉、昆虫のガ、ゴキブリ、室内においてカビ類があり、アレルギーの原因がわかりにくい季節です。
そのため、血液検査で原因アレルゲンを特定し、具体的な患者指導を行うことは、予防への第一歩になります。

ハウスダストって何？

ハウスダストは複数のアレルゲンの混合物です。
ハウスダストに一番多く含まれる成分はチリダニ（ヤケヒョウヒダニやコナヒョウヒダニ）であり、次にイヌ、ネコなどのペット類、ガやゴキブリの死骸やフン、カビなどが挙げられます。
イムノキャップのハウスダストは構成する主なアレルゲン（ダニ、イヌ、ネコ、ゴキブリ、カビなど）に対する特異的IgEを測定できるため、室内における原因抗原の特定が難しいケースではハウスダストは有用です。

イネ科花粉の口腔アレルギー症候群（PFAS）

花粉症の患者さまが特定の食物を摂取したときに 口腔粘膜に現れる即時型アレルギー症状をPFASと呼んでいます
(pollen-food allergy syndrome)。

特に ハンノキ、シラカバなどのカバノキ科花粉に感作すると、リンゴ、モモなどを食べた時にイガイガ、チクチクするといった症状がでることはよく知られています。
実はイネ科花粉感作でもPFASの可能性があり、メロン、スイカ、キウイなどは注意が必要です。

参考資料

- (1) 西岡謙二 : アレルギー・免疫 Vol.21, No.10, 2014
- (2) J Allergy Clin Immunol 2003 ; 112 : 362-8
- (3) 鼻アレルギー診療ガイドライン2016

3 KMLインフォメーション 5月～7月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用していただければ幸いです。

2020年5月18日 ヘリコバクターピロリ抗体 LA法 新規受託のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0518.pdf>

2020年5月22日 TBG定量 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0522.pdf>

2020年5月25日 一般細菌検査に関するお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0525.pdf>

2020年6月9日 総ホモシステイン 検査内容変更のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0609.pdf>

2020年6月22日 SARS-CoV-2抗体 新規受託のお知らせ
<https://www.kml-net.co.jp/information/pdf/2020-0622.pdf>

■□=====



最後までお読みいただきまして有り難う御座いました。

編集／発行 <https://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

=====□■